

キリスト者障害者通信

き
ぼ
うNo.86
2025.12.1

特定非営利活動法人兵庫共励会

〒672-8045 姫路市飾磨区中野田四一六一三八

FAX 〇七九一二三五八八一九

〇七九一二三五八一〇一六

振替 〇一一五〇一五二四二七五八

印刷所 新 生 会 作 業 所

全国キリスト教障害者団体協議会総会・修養会閉会礼拝メッセージ

「百匹の羊のたとえ」

マタイによる福音書18章10節〜14節

兵庫共励会副理事長

穂積修司



穂積修司 牧師

「百匹の羊のたとえ」は、マタイによる福音書とルカによる福音書にあります。わたしはマタイの方に惹かれました。その理由はいくつかありますが、ひとつは、1匹の表現です。マタイの場合は、「迷い出た」となっていて、この1匹が、自分の意思で群れを離れたという意味が強い表現になっています。わたしは、娘のを通して、このたとえを読む時、この「迷い出た1匹」というのは、「発達障害」で苦しむ娘のことではないかと思つたのです。「発達障害」の人は、なかなか、99匹と行動を共にすることができないのです。群れからはずれてしまうのです。

に残しておいて、この1匹を探しに行くとおっしゃっています。ここには、迷い出た1匹を決して、ほおつてはおかないというイエス様の非常に強い意思が示されています。また、神様がどんなお方なのかがよく示されています。

さて、イエス様によつて、連れ帰られた1匹ですが、果たして、今度は、群れの中で、楽しく過ごせるでしょうか？ もし、99匹が前と同じであつたら、どうでしょうか？ この「発達障害」の1匹は、そこにいづらくて、また、迷い出してしまうのではないのでしょうか？ では、どうしたら、帰つて来た1匹が、みんなと仲良く暮らせるようになるのでしょうか？ それについては、マタイとルカではだ

ぶ違っています。ルカでは、「悔い改め」という言葉が出てきます。群れからはずれないためには、1匹が悔い改めることが大切だと言っているのです。つまり、1匹が99匹に合わせる、「発達障害」の人が、社会に合わせる、それが大切だということです。わたしは、これはこれで、大事なことだと思います。生きづらさを解消するために、小さい頃から、社会に適應できるよう、訓練するということです。それは、それで、大切なことだと思います。

しかし、わたしは、それよりもっと大切に根本的なことがあると思うのです。それを示しているのが、マタイの100匹の羊のたとえです。それは、このたとえの最後の「そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」という御言葉に示されています。

これらの小さな者が一人でも滅びることは、天の父の御心ではないから、彼らが滅びないために、どうしたらよいか、あなたがたがよく考えなさいと言われているのです。つまり、迷い出た1匹の問題ではなく、99匹が自分の問題として考えなさいということです。つまり、ここでは、99匹の方が1匹を受け入れるために、変わることが求められているのです。

「発達障害」のような生きづらさを抱えている人が、喜んで生き生きと生きることができ

る社会に、学校に、地域に変わりなさいと言われているのです。

さらに言えば、99匹がそう変わった時、100匹全体が素晴らしい群れになる、素晴らしい社会になる、そう言われているのです。

マタイとルカで違うもうひとつのことがあります。それは99匹が残っている場所が、ルカでは「野原」となっているのに対し、マタイでは「山」となっていることです。山というのは、山上の説教や山上の変貌などからもわかりますように、マタイでは聖なる場所、すなわち、教会を表わすと言われています。だとすれば、イエス様は、何よりも、教会が、そのような場所になりなさい、「発達障害」のような生きづらさを抱えている人々が安心して生きることできるように、教会が変わりなさい、そうおっしゃっているのではないのでしょうか？

ある本に、「発達障害」を「違い」ととらえるか、「間違い」ととらえるか、一字違いだけでも、それによって、相手への関わり方が大きく違ってくるということが書いてありました。「違い」ととらえれば、相手の立場に耳を傾けようという、相手を尊重する姿勢が生まれます。そして、それによって、自分も変えられるわけですが、しかし、「間違い」ととらえると、教えてやろう、正してやろうという関わり方になり、下手をすると、

相手の存在を否定することにつながります。

教会やキリスト者には、今まで、後者の傾向が強かったように、わたしには思われます。相手を変えることに一生懸命で、教会が変わる、自分が変わるということを疎かにしてきただけではないでしょうか？

教会は変わったでしょうか？生きづらさを抱えて教会に来ている人々が安心して、自分らしく神様を賛美することができる教会になっ

ていないでしょうか？

皆さんの、教会ではどうでしょうか？
迷い出た1匹が帰って来ても安心できる教会に、そして、社会に、そして、何よりも、わたしたち一人ひとりが変えられるように、キ障協の働きがこれからも用いられますようにと切に願って、閉会のメッセージとさせていただきます。

「全国キリスト教障害者団体協議会 修養会・総会IN神戸」開催されました。

理事長 吉田裕恵

今回は、兵庫共励会が担当させていただき

ました。
兵庫共励会の「一泊研修会」を合流させていただき、共励会の会員様が多く参加してくださいました。



集合写真

開催日時 2025年7月7日(月)14:00～

8日(火)12:00

開催場所 ANAクラウンプラザホテル神戸

9階ラベンダー

参加人数 35名(ZOM参加者8名を含む)

廣田守男会長による、開会礼拝から始まり、そのあと「この最も小さな者の一人にしたのは、すなわちわたしにした」という演題で神戸国際支縁機構の岩村義雄理事長が、国内の災害支援にとどまらず、海外の災害支援に積極的に取り組んでおられる実践報告を中心に、熱く語っていただきました。

夕食交流会は各団体からの参加者の自己紹介、団体の紹介、歌ありトークありの、楽しい交流の時間を過ごしました。

2日目は、各団体からの団体の紹介と総会が持たれました。どの団体も会員の高齢化が進んで参加者が減少し、存続の試練にあることの報告がありました。

長年会長をされた廣田守男会長が退任され、後任者としては、とりあえず白井進副会長が代行者として選任されました。

来年度の修養会・総会は「東中国キリスト者障害を共に学び共に担う会」(東中国キ障共)が担当する事になりました。

閉会礼拝は穂積修司兵庫共励会副理事長が「百匹の羊のたとえ」と題してお語り下さり、再会を約束して解散いたしました。



キ障協修養会会場

宇仁菅一郎兄を

訪問しました。

日本イエス・キリスト教団神戸中央教会

信徒 石川 久子

5月24日土曜日に山下妙子姉と山陽電車の滝の茶屋駅で待ち合わせをして、宇仁菅一郎宅を訪ねる予定でしたが、あいにく雨になり、宇仁菅兄の提案で垂水駅で会うことになりました。

カレーライスを食べながら、キリストとの出会いについてお聞きしました。

学生時代に「盲晴キャンプ」に誘われた。その時に知り合った白井進牧師に導かれたとの事でした。その後、シオンの丘教会のキャンプにも行った。そのころ、日本イエス・キリスト教団 神戸中央教会の牧師だった仁科宜雄牧師が参加されて、料理に腕を振るっておられた事などの、エピソードをお聞きしました。

午後は、他の集まりがあるとの事で、「お元気でまたお会いしましょう」とお別れしました。



バス旅行のご案内

今年もバス旅行を実施します。ゆつくりと見学し、食事をいただき、交流ができる旅行を計画しました。

日時…2026年3月12日

行き先…みなとやま水族館

神戸市兵庫区雪御所町

21241101

小さな水族館です。館内にはレストランが整備されています。ニジマス釣りもできます。

参加費…2千円

後日往復ハガキにて、ご案内させていただきます。



「兵庫共励会の今後を考える。」

日本基督教団 神戸栄光教会

信徒 高野 國 昭

長年、兵庫共励会の理事として活躍されて来られた方が、入院されたのがきっかけとなり、急に認知機能が低下し、一人暮らしが難しくなられて、施設に入所せざるを得なくなってしまうわれました。今の状態では、共励会の集会にも出席が困難と思われます。このようなショッキングな現実と直面し、多くの戸惑いを感じています。

現在の日本は少子高齢化が進み、労働力不足が顕著になってきています。

ここは外国かと思える程、街を歩いていると外国から来られたと思われる人を多く見かけるようになりました。

福祉施設の現場も、外国から来られた職員が多くなってきました。ベトナムやインドネシアなどに出張して、施設で働いていた、だく職員を探しに行ってきたという話をよく聞くようになりました。

教会には若い人が少なく、高齢化が進んでいます。私が所属している教会は80歳以上の人が多くなっています。

あと、10年経ったら、礼拝出席者は大幅に減少してしまう状況です。

兵庫共励会も高齢化が進み、10年後には今所属している人の何人の人が残るのでしょうか。

今まで活発に活動してくださっていた方々が、高齢化に伴って、体調が悪くなったり、判断能力が低下されたりして、参加できなくなってきたりの方々が多くなっています。このような危機的状況の中で、この会を継続して行くためにはどうしたらよいのでしょうか。私たちの後を継いでくださる、若い方々をこの会に迎えないと継続していくことは困難だと思います。そのためには、50年間続けてきた事を継続していくだけではなく、将来につながる新しい活動を模索していく事が大切だと思います。

障がいのある人、無い人がキリストが教えて下さった、隣人愛の精神で「共に歩み、共に励まし合う」この私たちの理念を現実化するために、具体的に何を企画して行くことが求められているのでしょうか。

財源は、故古澤輝勝さんから戴いたシオンビルの土地と建物が与えられています。

この資金を使って、会員の将来にそなえた新しい事業を展開する事が必要だと思います。これまで、取り組んできた活動をもっと、充実する事も大切だと思います。

高齢化のために、集会に出席できなくなつた方々にもっと頻繁に連絡し合い、訪問して、

励まし合う事。機関誌「きぼう」をもっと多くの方々から原稿をいただいて、情報交換をして、互いに励まし合うような内容にできないでしょうか。もっと、気軽に寄稿できる機関誌にしようでしょうか？

また、気軽に皆さんが集まれる場所があったら良いと思います。移動の困難な方には、スマートフォンを使って、ZOOM等で、交流できるような方法はないでしょうか。

近くにいて、理事に皆さま方のご意見、ご要望をお聞かせいただければと思います。



理事会の写真

編集後記

今年は、猛暑の後秋が短く、急に寒い冬が訪れてきました。皆さまお元気でございましょうか。

今年のクリスマスも皆さまの上に豊かな祝福がありますように祈ります。